



学校教育目標

生徒一人一人の個性や能力の伸長を図り、徳・知・体の調和のとれた心豊かな人間の育成に努める。

こんな家族っていいなあ 「悪者だらけの家」は幸せ

☆悪者だらけの家庭

例えば、私が外から家に帰るでしょ。玄関を入ったとたん何かにつまずいて転びそうになったとします。玄関のたたき（靴を脱ぎ履きするスペース）に膝小僧を打ちつけて痛めたとしてもしょうか。何やら普段はそんな所に置いていない荷物があってそれにつまずいたのでした。「あ、痛て」と思わず悲鳴が上がるのを向こうにいた娘が聞きつけて「あ、お父さんごめんなさい。さっき私が帰ってきたとき、私もつまずきそうになったの。お母さんの所きた荷物なんですって。そのときお母さんが危ないから端の方に片づけておいてって頼まれたの。私がすぐに片づけておけばよかったのに。そのままにしておいたの。ごめんなさい。私が悪いの」と言います。

☆みんなが「自分が悪い」

そこへ母親が出てきて、「いえ、ね、私が荷物を受け取ったとき、すぐ始末をすればよかったのに、ちょっと手がふさがっていたから、私が悪かった。ごめんなさい」と言う。

息子も出てきて、「僕も気がついたんだ。こんな所に置いてあって危ないなと思ったんだ。僕がちょっと片づけておけばよかったんだ。最後に帰ったのは僕だから。僕が悪かった。ごめん、痛い思いをさせて」と言う。そんなことを聞くと、私だって「いやいや、私自身がぼんやりしていたんだよ。騒がせて、すまん。ごめんよ。」とでもいうことになります。みんなが「自分が悪い、自分が悪い」と言っている。こうした悪者だらけの家では、いさかいは起こりません。この家族は幸せです。

☆いい者だらけの家庭に喧嘩が多い

ところが、たいていの家ではどちらかと言えば、これと逆の方向に話がいきまわちです。「誰だ、こんな所に荷物を置いたのは」「私じゃないわよ」「僕も知らないよ」

「自分が少し気をつければいいのよ。みんなつまずかなかったんですもの」「そうよ、お父さんがぼんやりしているからよ」「何を言ってるんだ。玄関だぞ。もし、お客さんがつまずいたらどうする。気がついた者が片づけなきゃいかん。お前が悪いんじゃないか」

こんなことになる家が多いのではないのでしょうか。「お前が悪い。お前が悪い」と言っている家庭。つまり、「私は悪くない。私は悪くない」と言い、「私は正しい」と主張している家族。こんな家族を、「いい者だらけの家庭」と言っていますが「いい者だらけの家庭」に喧嘩や、争い、いざこざが多いのは考えてみますと、皮肉なことですね。

学校生活でも「お前が悪い。お前が悪い」「私は悪くない。私は悪くない」ありませんか？

*1、2年生の皆さん、24日（火）からの学年末考査頑張りましょう。

あなたの言葉や行動で傷ついている人いませんか？